

## 経済レポート

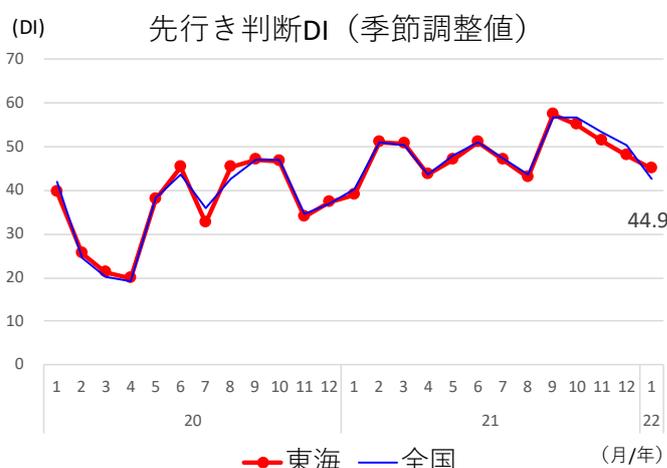
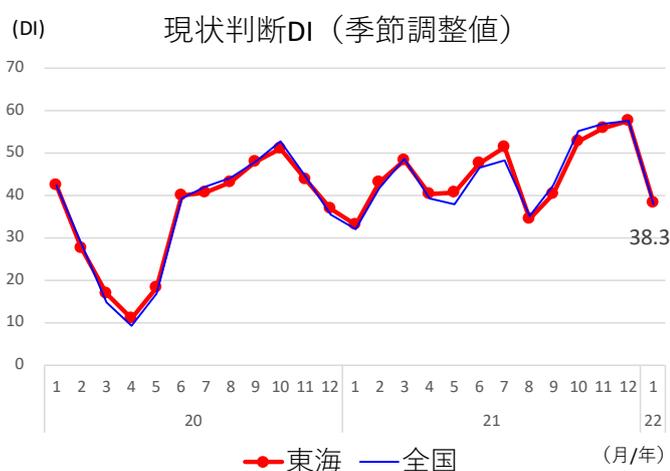
# 景気ウォッチャー調査(東海地区:2022年1月)

～コロナ感染拡大、まん延防止重点措置の適用により現状判断は大幅に悪化～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 2月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の1月<sup>1</sup>の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差-19.2ポイントの38.3と5ヶ月ぶりに大幅に低下した。  
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差-3.2ポイントの44.9と4ヶ月連続で低下した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

**新型コロナウイルスの感染が拡大し、まん延防止重点措置が適用される中で景況感は悪化している。先行きについては、コロナ感染拡大や原材料価格上昇によるコスト増への懸念がみられる。**

とまとめた。

(前月のまとめ)

「調査時点では、新型コロナウイルス感染者数の落ち着きにより景気は持ち直している。先行きについては、変異株の感染拡大への懸念が高まっている。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

**景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに弱さがみられる。先行きについては、持ち直しへの期待がある一方、コスト上昇等や内外の感染症の動向に対する懸念がみられる。**

とまとめている。

(前月のまとめ)

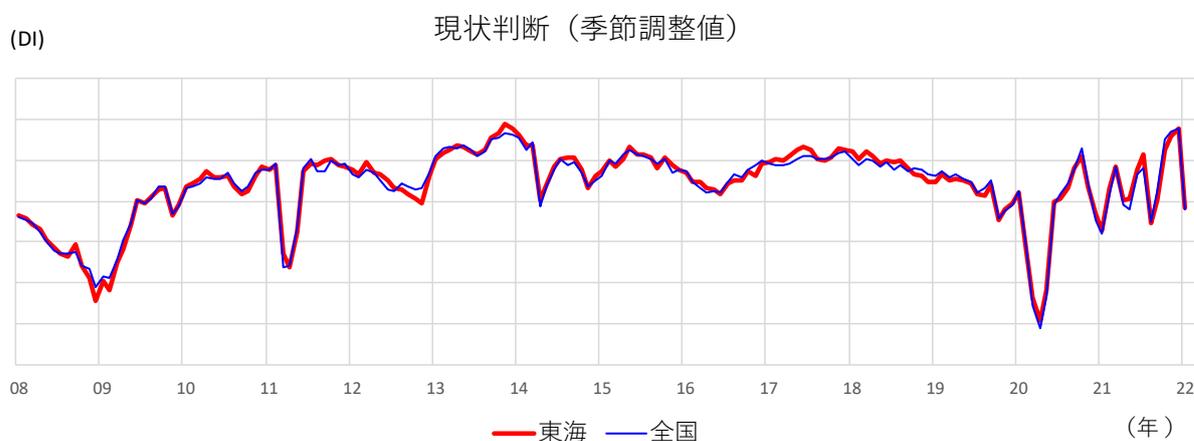
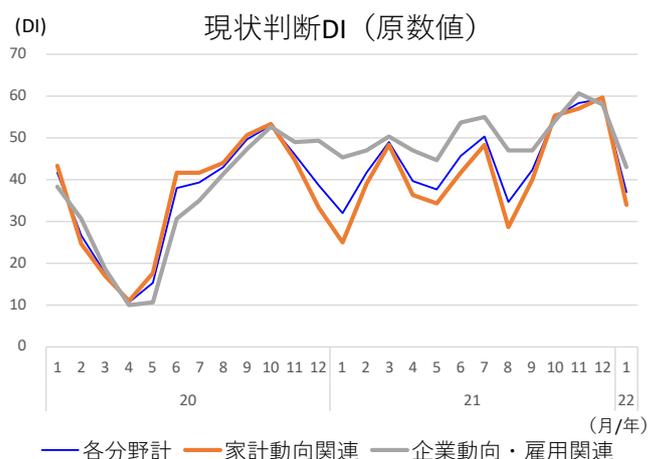
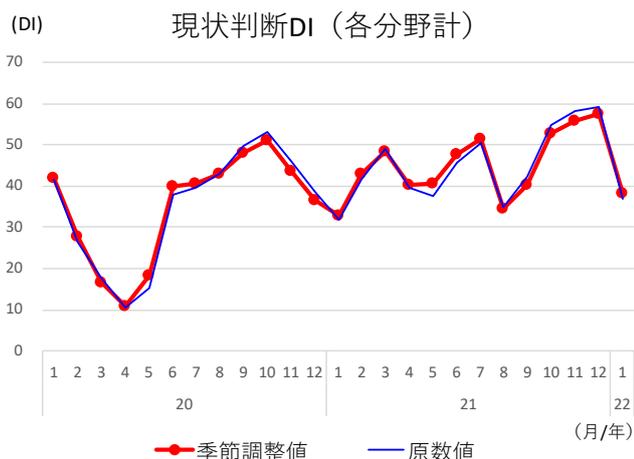
「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、持ち直している。先行きについては、持ち直しが続くとみているものの、コスト上昇等や変異株をはじめ内外の感染症の動向に対する懸念がみられる。」

<sup>1</sup> 調査期間は毎月25日～月末

## 1. 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

### (1) DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI<sup>2</sup>(季節調整値)は、前月差-19.2ポイントの38.3と5ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を4ヶ月ぶりに下回った。新型コロナウイルスオミクロン株の感染が急拡大し、まん延防止重点措置が適用されたことにより、8月の第5波の時を上回る大幅な低下となった。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同-25.5ポイントの34.1と5ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を4ヶ月ぶりに下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDI<sup>3</sup>は、同-15.0ポイントの43.1と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を4ヶ月ぶりに下回った。



<sup>2</sup> 本調査のアンケート・サンプル総数は233、うち家計関連157、企業・雇用関連76。以下、先行き判断についても同様。

<sup>3</sup> 企業動向関連と雇用関連からなるDI(原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

## (2) 現状判断理由の概要

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

### 【家計動向関連】

- 新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大、まん延防止重点措置の適用により人流が減少し景況感の大幅悪化につながった。原材料価格上昇の悪影響をあげる声もある。

|   |                  |  |
|---|------------------|--|
| ▲ | 商店街 (代表者)        | ・まん延防止等重点措置が適用されてから人の流れや来客が減った。年始辺りは人出も増えてきていたが、1月中～下旬にかけては、どこへ行っても比較的すいている印象を受ける。   |
| ▲ | 百貨店 (業績管理担当)     | ・新型コロナウイルス新規感染者数が増加しまん延防止等重点措置が適用されたことで、来客数、売上共に減少傾向にある。   |
| ▲ | スーパー (店員)        | ・原材料の価格高騰が相次ぎ多くの商品で値上げが増えているため、1品単価は上がっているものの販売数量はダウンしている。   |
| ▲ | 乗用車販売店 (従業員)     | ・半導体部品の遅れで、新車の生産がかなり遅れている。通常1月に注文を受けた場合は3月までには納められるが、今年は納期が3か月～半年以上となっていて、好転の兆しが全く感じられない。そのうえ、ガソリン価格が高騰して客が車を使う機会は減り、新車への代替やサービス工場への入庫が減り、負のスパイラルとしかいえない状況になりつつある。 |
| ▲ | 一般レストラン (経営者)    | ・やはり新型コロナウイルスの影響が大きい。特に、新型コロナウイルスオミクロン株は感染力が非常に強く、それを懸念して皆足が遠のいている様子である。   |
| ▲ | 観光型ホテル (経営者)     | ・3連休過ぎから新型コロナウイルスオミクロン株の新規感染者数が拡大し、当県もまん延防止等重点措置が適用となった。こういった外部的要因から新規予約は入らず、来客数も減少した。   |
| × | 一般小売店 [酒類] (経営者) | ・まん延防止等重点措置の適用で飲食店はほとんど休業し、営業している店でも、客が来ないので休業しようかと店主が言っていた。飲料の注文はほとんどなくなり、スタッフは休みにした。   |
| × | コンビニ (商品企画担当)    | ・月初めまでは順調に回復基調にあった来客数が、新型コロナウイルスオミクロン株拡大によるまん延防止等重点措置の影響で、中旬以降大きく下降した。テレワーク等による出勤抑制の影響からか2019年比50%台の日も続き、日配品を主体に売上が伸び悩んでいる。  |
| × | 旅行代理店 (経営者)      | ・新型コロナウイルス感染の爆発的な拡大と、県の旅行補助キャンペーン中断のため、旅行の受注はゼロになった。今後も復活する見込みはない。   |

### 【企業動向・雇用関連】

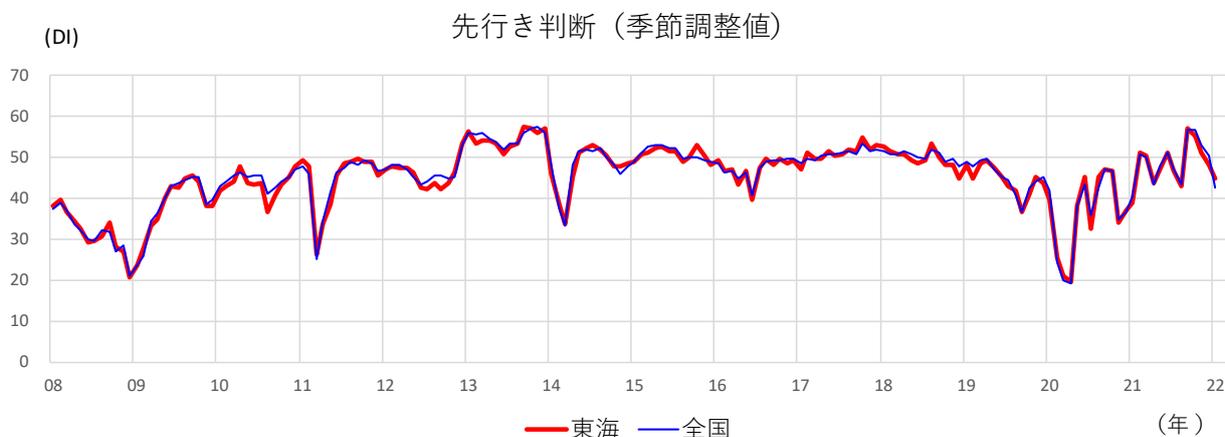
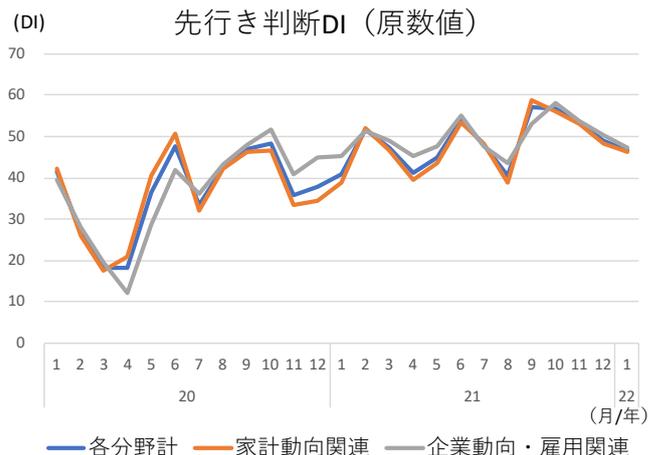
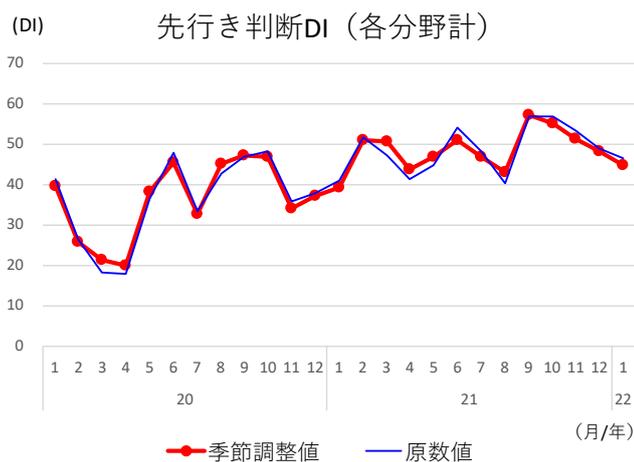
- 原材料価格の上昇、新型コロナウイルス感染拡大が業況に悪影響を与えているとの声が多い。

|   |                     |   |
|---|---------------------|---|
| □ | 輸送業 (従業員)           | ・小売業を中心に物量は増加しているが、自動車関連企業においては物量が鈍化している。輸送業界においても、燃料価格の高騰が企業経営に影響を及ぼしつつある。                                 |
| ▲ | 食料品製造業 (経営企画担当)     | ・原料価格の高騰が4月以降も続く見込みで、販売価格の引上げをスムーズに実施できなければ、収益を圧迫することは必至である。  |
| ▲ | 化学工業 (営業担当)         | ・半導体不足と新型コロナウイルスオミクロン株の影響で、自動車に関わる電子材料薬品の出荷量が減少した。  |
| ▲ | 輸送用機械器具製造業 (総務経理担当) | ・新型コロナウイルスの影響による完成車メーカーの操業停止や操業ダウンの影響を受けている。  |
| ▲ | 輸送業 (従業員)           | ・1月初めは客先の見込みも良い感じであった。しかし、ここに来て新型コロナウイルスオミクロン株の流行により、製造の方でブレーキが掛かったようだ。特に自動車関連産業の輸送は、メーカーが減産に入ったため落ち込みが大きい。 |
| ▲ | 人材派遣会社 (営業担当)       | ・堅調に求人数が増加していたが、まん延防止等重点措置が適用され、求人数が3か月前比では減少に転じている。  |
| × | 鉄鋼業 (経営者)           | ・受注量、見積量共にこの時期としては非常に低調で、2～3割減くらいであった。  |

## 2. 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

### （1）DIの動向

- 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計：季節調整値）は、前月差-3.2ポイントの44.9と4ヶ月連続で低下した。新型コロナウイルス感染、原材料価格上昇などによる景気への悪影響が懸念されている。
- 部門別に見ると（原数値）、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同-1.9ポイントの46.3と4ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同-2.9ポイントの47.4と3ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を5ヶ月ぶりに下回った。



## (2) 先行き判断理由の概要

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

### 【家計動向関連】

▶ コロナ感染のピークアウトを期待する声もあるが、先行き慎重な見方が多い。

|   |                   |   |
|---|-------------------|---|
| ○ | 百貨店（営業担当）         | ・まん延防止等重点措置が解けて、3回目のワクチン接種が進めば、回復に向かうと予想される。  |
| ○ | 家電量販店（フランチャイズ経営者） | ・新型コロナウイルスオミクロン株が2月にピークアウトすれば、来客数は伸びるのではないかと。今まで外出を控えていた慎重派にも購買意欲が戻ることを期待する。  |
| □ | スーパー（ブロック長）       | ・1月末から新型コロナウイルス新規感染者数の急増による内食需要の高まりで、売上はやや増加しているが、新型コロナウイルスの状況次第であり、先が見えない。   |
| □ | 乗用車販売店（経営者）       | ・半導体不足から始まった新車供給の遅れが、様々な部品の不足に広がり、正常な状態に戻るのには1年ほど要するとの話もあり、不安定な状況が続くと予想する。  |
| □ | 観光型ホテル（支配人）       | ・新型コロナウイルスがこのまま猛威を振るいつけるのか落ち着いていくのかは誰も知り得ないが、このまま続けば、前々年の春先のように館内の食堂を何店舗か休業しないといけない状態に追い込まれるのは必至である。いつまで持ちこたえられるか、気が気でない。 |
| ▲ | スーパー（店員）          | ・大豆や油の価格が高騰し、値上げのニュースがどう響いていくか。ガソリンも依然高値を維持しているので、野菜全般の仕入価格も高くなり、価格転嫁せざるを得ない状況になっていくと予想される。                               |
| ▲ | 理美容室（経営者）         | ・客との話では、もう余り出歩かないし金も使わないということなので、段々と景気は悪くなると思う。   |
| × | 乗用車販売店（従業員）       | ・すぐに新型コロナウイルスの感染が収まるとは思えない。収まってもすぐに景気が回復するより、今は非常にひどい状況のため、悪い状態が続くと思う。  |
| × | テーマパーク（職員）        | ・新型コロナウイルスオミクロン株が収束するまでは難しい。  |

### 【企業動向・雇用関連】

▶ コロナ感染拡大、原材料価格の高騰などが懸念されている。

|   |                    |  |
|---|--------------------|--|
| □ | 輸送用機械器具製造業（総務経理担当） | ・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたとしても、部品の生産がすぐに垂直に立ち上がってくるわけではないため、3か月先は今よりはましであろうが、かつての調子で生産量が伸びていくとは思えない。                      |
| ▲ | 食料品製造業（経営企画担当）     | ・原料、燃料関係の価格高騰と高止まりを懸念する。   |
| ▲ | パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）  | ・新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、それに加えて主要原材料の値上げが発表された。取り急ぎの価格転嫁はとて無理な状況下で収益面では大きな打撃があり、景気はやや悪くなると思われる。                          |
| ▲ | 電気機械器具製造業（経営者）     | ・鋼材の値上げが5割増しに近い。価格転嫁をし切れていない部分があり、今後の継続に難が発生しそうである。  |
| ▲ | 建設業（役員）            | ・前年末から特に建設資材が高騰している。建設業としても今後の受注に影響があるとみている。住宅販売に関しては、ウッドショックなど資材高騰が売価に反映されるため、新規販売物件に客が付いてこられるか不安である。               |
| ▲ | 輸送業（経営者）           | ・物量の減少傾向に加え、運転手不足や半導体不足を主因とするトラック納入の大幅遅延が重なって生産力が足りず、売上確保に支障が生じると見込まれる。  |
| ▲ | 民間職業紹介機関（営業担当）     | ・新型コロナウイルスの感染拡大により面接設定などが長期化するケースも出ており、不透明な状況である。  |
| × | 会計事務所（職員）          | ・部品不足や仕入価格の上昇が続いており、売上減少、利益率が悪化している状態が続いている。この先も新型コロナウイルスの感染再拡大により、客先の小売店での感染者の発生による休業や来客数減少などが見込まれ、更に厳しい状況となりそうである。 |

## 景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
  - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
  - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
  - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
  - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
  - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
  - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1) (2) については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて D I を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、D I は 50 となるため、D I = 50 が景気の横ばいを示すこととなる。

|    |              |                  |                          |                  |              |
|----|--------------|------------------|--------------------------|------------------|--------------|
|    | 良くなっている      | やや良くなっている        | 変わらない                    | やや悪くなっている        | 悪くなっている      |
| 評価 | 良くなる<br>(良い) | やや良くなる<br>(やや良い) | 変わらない<br>(どちらとも<br>いえない) | やや悪くなる<br>(やや悪い) | 悪くなる<br>(悪い) |
| 点数 | +1           | +0.75            | +0.5                     | +0.25            | 0            |

(出所) 内閣府 HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府 HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

### － ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。